

29 医学系の海外留学生（韓国一八九六一

一九四五）

奇 昌 徳

我が国の人で、西洋医術を学ぶ為に外国に行った最初の人は池錫永である。一八八〇年の五月から九月まで約四ヶ月間、西洋医学の全般について体系的に教育を受けたのではないが西洋医術を学んで来たのは事実である。

ところで医学校で正規の医学を学んだのは徐載弼で、一八八五年十二月、失敗した甲申政変に共謀して米国に亡命し、一八八九年、コロムビア大学校医科大学に入学、一八九二年三月に所定の課程を終えて韓国最初の医師になった。二番目は金點童（朴エスタ）で、一八九六年、米国の監理教宣教女医師アル・エス・ホルに従って米国に渡り、同年十月一日、バルチモア女子医科大学に入学、一九〇〇年、卒業した韓国最初の女医師である。

その後、吳兢善博士が一九〇二年に群山へ赴任した米

国の南長老教宣教医師アレキサントルの斡旋で渡米し、一九〇四年三月にルイスベル大学校医科大学に入学、一九〇七年卒業して米国で三番目の医師となって帰国した。

一方、日本では一九一〇年までに四名が医師になっている。

即ち、一八九五年、政府で実施した日本留学生の試験に合格した金益南が、一八九六年一月、日本の慈恵医院医学校に入学し、一八九九年十一月卒業、日本文部省の医師免許の交付を受けた。

同じく政府留学生の安商浩が翌年（一九〇〇年）、この慈恵医院医学校を卒業している。

また千葉医学専門学校を一九〇四年に朴宗恒が、一九〇年には康東鉦が卒業し医師になった。

我が国では一八九九年、医学校を設置し西洋医学の教育を開始したが、この医学校は日本の医学校の速成科学制を採用したもので、当時の医学教育程度は日本と差があった。そのため、この医学校の出身者たちは正当な待遇を受けることが出来ない事もあった。

そこで、合併後、志のある医学徒は日本に留学するか、または独逸に留学するようになった。

英国に留学している例もある。基督教系宣教部が経営していたセブランス医学専門学校では教授要員として米国の大学院課程に一名を留学させている。

日本には上述の一八九六年より一九一〇年までの間の四名と、一九一〇年より一九四五年まで、男子二六五名、女子一〇一名が医科系学校に留学し、あわせて三六九名が医師になっている。また、韓国人医師で日本の医科大学の教授会において博士論文が通過し学位が授与された一三三名の韓国人医学博士もいる。

独逸には研究課程に六名が留学し医学博士の学位を得ている。

(大韓医史学会理事)